

海外自治体幹部交流協力セミナー2024（シンガポール事務所管内）

事業概要

地方交流事業テーマ：地方創生の最前線 兵庫県養父市の持続可能なまちへの挑戦

海外参加者数： 11名

Ms. INDAH PUTRI INDRIANY（インダー プトゥリ インドリアニ）
インドネシア 北レウ県 県知事
Mr. YAN SARETH（ヤン サレ）
カンボジア 労働職業訓練省 総務課長 副局長
Mr. GURU RAVI RANJAN KUMAR（グル ヴィ ランジャン クマール）
インド オールインド自治体協会 副事務局長
Mr. INDRA MAULANA SYAMSUL ARIEF（インドラ マウラナ シュムスル アリーフ）
インドネシア 内務省 人的資源開発庁 バンドン支部長
Drs. ASPAR SYAFAR TOHATIJA（アスパル シヤファル トハティジャ）
インドネシア 北レウ県 開発計画・研究革新庁長官
Professor Dr. DANI BIN SALLEH（ダニ ビン サレー）
マレーシア北大学 地方行政研究所長
Mr. MARTHANDAN YATHAMANIAM（マルタンダン ヤタマニアム）
マレーシア 住宅地方自治省 課長補佐
Ms. HIRIMURA GAMAGE THARANGA SUMUDU PRIYARSHANI （ヒリムラ ガマゲ タランガ スムドゥ プリヤルシャニ）
スリランカ 公共管理・内務・州評議会・地方政府省 事務次官補佐（地方自治体担当）
Mr. CHANABOON PASIT（チャナブーン パシット）
タイ コーンケン市 助役
Ms. VIBULSUKH PATARANARD（ヴィブンスク パッタラナード）
タイ 内務省 地方自治振興局 行政評価課長
Mr. CHU TUAN TU（チュ トゥアン トゥ）
ベトナム 内務省 国際協力局長

日程：

月日	内容
2/9（日）	来日、オリエンテーション
2/10（月）	東京セミナー（日本の地方自治講義、都内視察） クエア主催歓迎レセプション
2/11（火・祝）	受入自治体（兵庫県養父市）へ移動 地方交流事業（養父市長への表敬）、養父市主催歓迎夕食会
2/12（水）	地方交流事業（施策説明、視察）

2/13 (木)	地方交流事業 (視察・体験) 帰国前夕食会
2/14 (金)	地方交流事業 (意見交換会) 東京都へ移動
2/15 (土)	帰国

【 2月10日 (月) 】

(1) 講義：日本の地方自治

シンガポールセミナーの初日は、明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科の木村俊介教授による講義が行われた。講義から、地方自治の歴史や制度、政府の構造、国と市町村の関係について、わかりやすく解説していただいた。参加者は、日本の地方自治の発展と現状について学ぶ機会となった。質疑応答では、日本の地方自治体が直面する課題や、少子高齢化社会に関する質問が寄せられた。



(2) 巣鴨地蔵通り商店街及び東京さくらトラム・六義園

午後は、豊島区にある巣鴨地蔵通り商店街を訪問した。「おばあちゃんの前宿」と呼ばれて有名になった商店街であり、参加者は昔ながらの活気のある日本の商店街の様子を見ることができた。また、商店街を抜け、庚申塚駅にたどり着き、レトロ感のある駅舎で東京さくらトラムを見学した。その後、伝統的な庭園である六義園を訪問した。参加者は庭園内の落ち着いた雰囲気を感じ、ゆっくりと散策した。



(3) クレア主催歓迎レセプション

新宿ワシントンホテルにて開催。参加者11名のほか、クリアから常務理事、事務局長、シンガポール事務所赴任予定者の3名が参加し、盛大な歓迎会となった。



【2月11日(火・祝)】

(1) 視察：兵庫県養父市へ移動・養父市長表敬

東京から兵庫県養父市へ移動し、到着後、まず初めに大林市長を表敬訪問した。市長から歓迎のご挨拶で、養父市の魅力や伝統を直に感じてほしいというお言葉をいただいた。参加者を代表して団長を務めたインドネシア北ルウ県知事からご挨拶があり、「このセミナーを通じて、交流を深め、連携が強化されることを期待している。」と述べられた。



(2) 養父市主催歓迎レセプション

養父市が主催する歓迎夕食会が開催された。参加者や養父市長を含めて26名が出席した。美味しい料理が提供され、皆さんは楽しく歓談し、活気のある夕食会となった。養父市在住の書道家、華汀先生による書道パフォーマンスが行われ、参加者は華汀先生が書かれたお名前入りの扇子等の記念品をいただき、大変喜んでいました。



【2月12日（水）

（1）養父市施策説明

地方セミナー2日目は、まず大林市長による養父市の取組や施策について行政説明が行われた。養父市の歴史や文化についての紹介のほか、国家戦略特区としての経済活性化の仕組みについて説明があった。参加者からは、養父市の抱える地域課題である人口減少への対策や観光客を増やす施策などについて質問があった。



（2）(株)トーヨー養父農業生産法人の施設見学

国家戦略特区の特例を活用している事業を理解するため、(株)トーヨー養父農業生産法人の施設を訪問した。施設内では、トマトの栽培方法について説明を受けた。参加者からは、トマトの生産や輸出、隣接する(株)トーヨー養父バイオエネルギーの施設と連携した持続可能なエネルギー利用について質問が寄せられ、強い関心が示された。



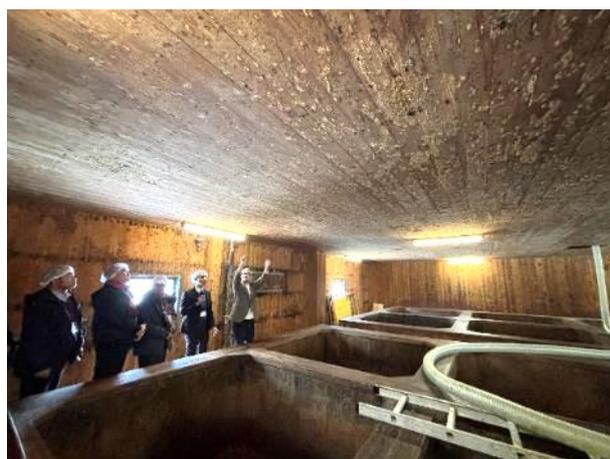
(3) 農家レストラン中村屋（村ん中）で昼食

農家レストランの中村屋（村ん中）で、湯葉をアレンジした『湯葉御膳』を食べた。湯葉の刺身や湯葉丼など、さまざまな湯葉料理が楽しめ、参加者から大変好評であった。中村屋（村ん中）は、特別の特例を活用して、農用地区内に建てられおり、養父市の地元の野菜や農産物を使った料理を提供している。



(4) 大徳醤油(株)で蔵見学

午後から、大徳醤油(株)を訪問し、醤油蔵の見学を行った。まず、大徳醤油(株)の会社説明が行われ、伝統的な技法を使った醤油づくりが徐々に減少している現状について話を伺った。その後、醤油の仕込みや製造工程の説明を受けながら、実際に蔵の内部を見学した。伝統的な醸造方法を間近で体験することで、参加者にとって日本の食文化の奥深さを感じる機会となった。



(5) 大杉地区（重要伝統的建造物群保存地区）の散策と木彫展示館の見学

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された養父市の大屋町大杉地区を訪問し、地元住民でもあるガイドに案内されながら散策した。参加者は、養蚕住宅を中心に、土蔵や昔ながらの徒並みを見学し、地域の歴史や文化について理解を深めた。木彫展示館には、木彫りのフォークアートの作品が展示されており、特に、布や紙を表現した作品やユーモアを感じさせる作品が多く、木彫展示館ならではの魅力を感じることができた。



(6) 日の出ホールディングス(株)食品カンパニー但馬醸造所と施設見学

その後に、日の出ホールディングス(株)食品カンパニー但馬醸造所を訪れた。かつては小学校舎であった工場施設を見学しながら、地元の農産物を利用した酢等の加工食品についてお話を伺った。また、「やぶジンジャーすかつしゅ」という飲み物を試飲することができ、参加者にとても好評であった。参加者は、この視察を通じて、廃校を再利用した地域活性化の事例を知ることができた。



【 2月13日（木） 】

（1）ハチ高原（スノーアクティビティ）

朝からお昼過ぎまで、ハチ高原で雪のアクティビティを体験した。そりやリフトに乗ったり、かまくらを体験するなど、冬ならではの遊びを満喫した。特に、初めて雪に触れる参加者もあり、雪遊びを通して冬のアクティビティを体験する貴重な時間となった。この体験は、日本の冬の魅力を広める良い機会となり、参加者にとって楽しく思い出に残るものとなった。



（2）自動運転バスの体験

スノーアクティビティの後、自動運転バスに乗り、最新の自動運転技術を活用した移動を体験した。乗車中に、持続可能な公共交通の取組や、運転機能について解説があり、参加者は非常に興味を持っていた。地域の交通課題を解決するための具体的な事例を知る機会となった。



(3) 帰国前夕食会（ふなき）

夜の帰国前夕食会では、養父市の市長、副市長らとともに食事を楽しみ、地方セミナーの最後の夜を締めくくりにふさわしい印象深い夜となった。



【 2月14日（金） 】

(1) 意見交換会

地方セミナーの最終日に、参加者と養父市職員との間で、意見交換会が実施された。参加者は一人ずつセミナーの振り返りや意見を発表した。参加者からは、「今回のセミナーを通じて、行政説明や現場視察を経験し、多くの学びを得ることができた。」や、「東南アジアの地方部も養父市と同じような課題（若者の都市部への流出、地方の少子高齢化など）を抱えているため、養父市の地域活性化の取組がとても参考になった。」といった意見があった。



【 2月15日（土） 】

参加者帰国